

単元名 3 言葉と向き合う ―言葉を比べよう

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 抽象的な概念を表す言葉について理解し、類義語の微妙な違いを考えることを通して語感を磨くことができる。
(3) 今までの学習を生かして、積極的に抽象的な概念を表す語句の量を増し、語感を磨こうとする

標準的な展開例

11210117_001

【準備等】国語辞典、類語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 似た意味の言葉を比べて違いを考え、選んだ言葉で物語を書く。 ○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ もっと「伝わる」表現を目指して、言葉を比べよう。 ○ 言葉を分類して、類義語を集める。 ・ 教科書(p. 80)にある言葉を「具体的な物や事柄を表す言葉」と「抽象的な概念を表す言葉」に分類する。 ・ 「抽象的な概念を表す言葉」から一つ選び、類義語を集める。 ○ 類義語を比較し、分かったことを話し合う。 ・ 集めた類義語を使って文を作り、そこから分かった違いをまとめる。</p> <p>○ 「対義語を考える」(p. 81)に取り組む。</p>	<p>・ 似た意味の言葉の中から一つ例を示して、違いについて考えさせてもよい。</p> <p>・ 国語辞典や類語辞典を参考にさせるとよい。</p> <p>・ 意味や使い方の微妙な違いに気付かせるとよい。</p> <p>【評】 類義語の微妙な違いを考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】 「対義語を考える」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

短歌は、今日まで継承されてきた代表的な日本の伝統的言語文化の一つである。そのため伝統的な表現やものの見方と、新しい表現やものの見方が融合して、新しい世界を築いてきた。歌人でもある書き手に導かれながら、豊かな短歌の世界を味わわせたい。

また、短歌の学習を通して、生徒は日常の小さな経験や思いなどを繊細に表現する多くの言葉に出会えるだろう。その学習も生かしながら、自分たちの経験や思いなどをより明確に、相手に伝わるように言い表すことのできる言葉を考えさせたい。また、類語辞典等を活用しながら、和語の働きや差異などにも注目させたい。